

宇治群島宇治島の海産貝類相

河合 溪

鹿児島大学多島圏研究センター

Mollusk Fauna at Uttchima Island in Uji Islands, Kagoshima Prefecture

KWAWI Kei

Research Center for the Pacific Islands, Kagoshima University

緒言

宇治群島にはケブカヤマトガイやウジグントウゴマガイのような陸産固有種を含め陸・淡水産貝類が 31 種生息することが報告されている(桑水流他 2003)。一方海産貝類については過去に幾つかの調査が行われており 47 種－154 種が生息する事が報告されている(Hirata 1953, Murayama & Hirata 1968, 桑水流他 2003)。地球規模での温暖化が報告されている現在、色々な生物の分布について過去のデータと比較する事でその影響を検討することは重要になってくる。そこで今回は宇治群島宇治島に注目しそこに生息する貝類相を調べ過去のデータと比較する事で海産貝類の分布の変化を調べる事を目的にし調査を行った。

方法

調査は平成 17 年 5 月 10 日に宇治群島の宇治島において行った。宇治島の海岸線は切り立った崖が続いている。そして港から他へ移動する道も発見できなかったため、港近くの岩礁を対象域にした。岩礁上に 2x2m の方形枠を 10 個設置すると共に、海岸線を歩く事で貝類の採集を行った。調査は満潮時に開始し終了時は干潮時に終了した。採集した貝類は 70%アルコールに固定し実験室に持ち帰り種の同定を行った。

結果と考察

観察された貝類は 10 科 17 種に及んだ。以下観察された貝類を記述する。ヨメガカサ科ベッコウガサ *Cellana grata*、ユキノカサガイ科ウノアシ *Patelloida*

saccharina、ニシキウズガイ科イシダタミ *Monodonta labio f. confusa*、サザエ科コシタカサザエ *Turbo stenogyrus*、アマオブネガイ科キバアマガイ *Nerita plicata*、アマオブネガイ *N. albicilla*、*Neritina sp.*、タマキビ科ホソシジウズラタマキビ *Littoraria undulata*、アラレタマキビ *Nodilittorina radiata*、タカラガイ科ハナマルユキ *Cryraea caputserpentis caputserpentis*、キイロダカラ *C. moneta*、アッキガイ科レイシダマシ *Morula granulata*、キマダライガレイシ *Drupa ricinus ricinus*、テツレイシ *Thais savignyi*、テツボラ *Purpura panama*、エゾバイ科イソニナ *Japeuthrica ferrea*、イモガイ科マダライモ *Conus ebraeus*。

キバアマガイは分布の北限が屋久島となっている（奥 2000）。小型個体から大型個体まで観察されたのでおそらくここで繁殖が行われていると考えることができるであろう。また、Murayama & Hirata (1968)もキバアマガイの生息を報告している。したがって、この地域がこの種の北限となっていると考えられる。一方、イシダタミの分布は北海道南部以南から九州と報告されている（奥谷 2000）。したがって、宇治島はこの種の南限に位置すると考えられる。このように宇治島は温帯域と熱帯域を分布する種が混じって分布する特徴を持つと考えられる。

すでに宇治群島における海産貝類の調査はいくつかある。Hirata(1953)では106種、Murayama & Hirata (1968)は154種、桑水流他(2003)は47種を報告している。本調査は最も少ない観察数であった。これは、今回の調査は限定された時間と共に調査域が限定されてしまったため、予備調査的なものとなってしまったためと考えられる。

今回の調査は観察種数では最も少ない種数ということも考慮されるが、過去に報告されている貝類相と大きく異なることはなかった。従って、貝類の分布に影響する環境要因が近年大きく異なったということはないと考えられる。しかし、この点についての今後の仔細な研究が必要である。

引用文献

Hirata K. (1953) On the fauna of the shell-bearing mollusca of the Uji Islets.85-92.

Sci.Rep.Kagoshima Univ.

桑水流、森田康夫、丸野勝敏、廣森敏昭、行田義三、坂田泰典、中田弘、山元幸夫、鮫島正道、溝口文雄(2003) 宇治群島の自然調査報告（その2）、鹿児島県立博物館研究報告、22, 1-58.

Murayama S. and Hirata K. (1968) Shell-bearing mollusks of the Uji islets. 17.86-93.

Mem.Fac.Fish.,Kagoshima Univ.

奥谷喬司（2000）日本海産貝類図鑑、東海大学出版会、pp1173.